

社会福祉法人 春風会 介護職研修やまゆり
令和4年度 介護職員初任者研修

受講生募集

～ 日本中で通用する介護の資格が取れます！！ ～

『介護職員初任者研修』は介護の基礎を学ぶ研修です。国家資格である介護福祉士の受験要件の一部を学び、介護職員初任者研修修了という資格を手にすることができます。就職や手当が優遇されるだけでなく、超高齢社会の中で役立つ知識や技術を得ることができます。

日 程 2022年7月7日(木)～10月10日(月)(月・木曜・週2回)

会 場 小規模特別養護老人ホームすいせんの里

内 容 講義 80.5時間 / 演習 43.5時間 / 実習 6時間 / 合計130時間

- * 1日の修学時間は6時間程度で、実質23日程度です
- * 実習は1日のみで実務経験等により免除があります
- * 別途、オリエンテーション・筆記試験が各1時間あります

定 員 20名

受講料 60,000円 (テキスト代含む)

募集期間 2022年6月1日～7月4日(予定)

筆記試験も大丈夫!!
筆記受験者の資格
取得率は100%
です。(2021年現在)

【詳しくは下記までお問い合わせください。】

* 募集期間 6月1日～7月4日(※定員になり次第終了します)

* 〒377-0433 吾妻郡中之条町折田2515 特別養護老人ホームやまゆり荘内

電話:0279-75-6517 FAX:0279-75-7551

電子メール:yamayuri@bay.wind.jp 介護職研修やまゆり 担当 下前

①研修事業情報（介護職研修やまゆり）

法人情報	法人名 社会福祉法人春風会 代表者 理事長 田村 りい子 住所 〒377-0433 群馬県吾妻郡中之条町折田2515番地 T E L 0 2 7 9 - 7 5 - 6 5 1 7
研修機関情報	事業所 介護職研修やまゆり 代表 施設長 倉田 由香 住所 〒377-0433 群馬県吾妻郡中之条町折田2515番地 特別養護老人ホームやまゆり荘内 T E L 0 2 7 9 - 7 5 - 6 5 1 7 F A X 0 2 7 9 - 7 5 - 7 5 5 1 E-mail yamayuri@bay.wind.ne.jp
対象者	・介護の業務に従事しようとする者。 ・介護の業務に従事し、基本的な介護技術や知識を学びたい者。 ・地域の福祉基盤を支えたいと考える者。
研修スケジュール	・研修実施期間：約3か月（実質23日間：講義都合により延長あり） ・週に2日（主に月・木曜日の平日） - 講義のみ10日・講義と演習10日・演習のみ2日・実習1日 ・講義：80.5時間 ・演習：43.5時間 ・実習：6時間 ・合計：130時間 （別途：筆記試験：1時間・オリエンテーション1時間）
定員	・30名（最大数）
研修受講までの流れ	1. 仮申し込み（電話・FAX・来荘などにより、受講の意向をお伝えください） 2. 書類送付（正式な申込書などを送付します） 3. 正式な申し込み（申込書・受講料振込などを確認） 4. 手続き完了 5. 受講日指定時間の指定場所にいらしてください。（教本等は当日配布いたします）
費用	¥60,000 - （教材費込み）

留意事項 特徴 受講者への メッセージ等	留意事項 ・申込者が多数の場合は本申し込み順とさせていただきます。 ・正式な申し込み後は、教本等を手配する都合からキャンセル料が発生することがございます。
	特徴 ・群馬県の北毛地域で介護員養成研修を実施しております。広い地域から、別々の施設等にお勤めの方、未経験の方、10代から60代以上の方まで幅広い層の方が集まり、和気あいあいと学びを深めています。
	受講者へのメッセージ等 ・北毛地域にありながら、前身の訪問介護員養成研修（ホームヘルパー養成研修）から行っています。講師はその道のプロフェッショナルやスペシャリスト、ホームヘルパーから介護福祉士になった方まで、様々な意味で受講生を導ける方が揃っています。また、受講生に最後の最後まで向き合っていきますので、安心して受講してください。
課程責任者	下前 剛次（特別養護老人ホームやまゆり荘 介護課長）
講師情報 (内部講師) (記載資格は研修 関連資格のみ)	倉田 由香 平成14年より、訪問介護員、通所介護副主任兼生活相談員、短期入所サブリダー、特養生活相談員兼介護支援専門員、小規模特養施設長を経て、令和3年4月より特別養護老人ホームやまゆり荘の施設長となり現在に至る。（介護福祉士・介護支援専門員）
	加部 愛 平成11年より、特養介護係、訪問介護員、介護支援専門員を経て、平成29年6月から特別養護老人ホームやまゆり荘生活相談員兼介護支援専門員として現在に至る。（介護福祉士・介護支援専門員）
	小池 勝也 平成13年より、特養介護係、特養グループサブリダー・グループリーダー・介護係長、短期入所リーダーを経て、令和4年4月から小規模特別養護老人ホームすいせんの里生活相談員として現在に至る。（介護福祉士）
	畠山 鈴美香 平成11年より病院等で栄養士として勤務、平成26年11月より特別養護老人ホームいわびつ荘の栄養士として現在に至る。（栄養士）
	山口 千鶴 平成9年4月より日本赤十字病院等看護師を経て、平成29年4月より特別養護老人ホームやまゆり荘看護師として現在に至る。（看護師・介護支援専門員）
	武田 朝子 平成12年よりデイサービスセンター介護職、居宅介護支援事業所の介護支援専門員を経て、平成26年2月より特別養護老人ホームやまゆり荘介護支援専門員として現在に至る。（介護福祉士・介護支援専門員）
	下前 剛次 平成12年より、特養介護係、通所介護副主任・主任・生活相談員・訪問介護員養成研修主任、特養グループサブリダー・グループリーダー・グループ介護推進室室長、地域公益活動推進室長などを経て、令和4年4月より特養介護課長として現在に至る。（介護福祉士・ぐんま認定介護福祉士・認定介護福祉士）

実績情報	(介護員養成研修)			
	訪問介護員養成研修（2級課程）			
	年 度	回数	参加者数	卒業率
	平成15(2003)年度	2	40	100%
	平成16(2004)年度	2	43	100%
	平成17(2005)年度	3	70	100%
	平成18(2006)年度	2	39	100%
	平成19(2007)年度	1	24	95.8%
	平成20(2008)年度	2	41	97.6%
	平成21(2009)年度	1	29	96.6%
	平成22(2010)年度	1	30	100.0%
	平成23(2011)年度	1	30	100.0%
	平成24(2012)年度	1	30	100.0%
	介護職員初任者研修			
	年 度	回数	参加者数	卒業率
	平成25(2013)年度	1	15	93.3%
	平成26(2014)年度	1	17	94.10%
	平成28(2016)年度	1	15	100%
	平成29(2017)年度	1	12	91.70%
	平成30(2018)年度	1	9	100%
	令和元(2019)年度	1	11	90.90%
	令和3(2021)年度	1	12	100%
	合計	17年度	23回	467名
				95.12%
連絡先等	申し込み・資料請求先 〒377-0433 吾妻郡中之条町折田2515(特別養護老人ホームやまゆり荘内) 電話 0279-75-6517 FAX 0279-75-7551 E-mail yamayuri@bay.wind.ne.jp 介護職研修やまゆり 担当 下前			
法人の苦情対応者	社会福祉法人春風会			
	苦情処理責任者 : 倉田 由香			
	役 職 : 特別養護老人ホームやまゆり荘 施設長			
	連 絡 先 : 0279-75-6517			
	安心介護相談員（第3者委員会）			
	吉澤 幸一 0279-75-5589 須永 冷子 0279-75-3598 雨宮 蘭子 0279-67-2474			

事業所の苦情対応者	苦情処理責任者	:	倉田 由香
	役	:	介護職研修やまゆり 施設長
	連絡先	:	0279-75-6517（特別養護老人ホームやまゆり荘）

カリキュラム及び日程表（令和4年度第1回）

事業者名 社会福祉法人春風会

研修課程 **介護職員初任者研修課程**・生活援助従事者研修課程

名称 介護職研修やまゆり

形式 **通学**・通信

募集開始日 令和4年6月1日

定員 20名

講義及び演習

実施年月日	時間	時間数			細目番号	細目名	講師名	会場
		講義	演習	独白				
令和4年7月7日	8:30 ～ 9:00			0.5		オリエンテーション	研修コーディネーター	すいせんの里
令和4年7月7日	9:00 ～ 12:10	3.0			(1)	多様なサービスの理解	下前 剛次	
令和4年7月7日	13:00 ～ 16:10	3.0			(2)	介護職の仕事内容や働く現場の理解	下前 剛次	
令和4年7月11日	9:00 ～ 10:30	1.5			(5)	介護職の役割、専門性と多職種との連携	倉田 由香	
令和4年7月11日	10:40 ～ 12:10	1.5			(6)	介護職の職業倫理	倉田 由香	
令和4年7月11日	13:00 ～ 16:10	3.0			(10)	医療との連携とリハビリテーション	大木 美穂	
令和4年7月14日	9:00 ～ 10:30	1.5			(7)	介護における安全の確保とリスクマネジメント	倉田 由香	
令和4年7月14日	10:40 ～ 12:10	1.5			(8)	介護職の安全	倉田 由香	
令和4年7月14日	13:30 ～ 15:00	1.5			(15)	高齢者と健康	田島 郁文	
令和4年7月21日	9:00 ～ 10:30	1.5			(16)	認知症を取り巻く状況	大木 美穂	
令和4年7月21日	10:40 ～ 12:10	1.5			(17)	医学的側面から見た認知症の基礎と健康管理	大木 美穂	
令和4年7月21日	13:00 ～ 14:30	1.5			(18)	認知症に伴うこころとからだの変化と日常生活	大木 美穂	
令和4年7月21日	14:40 ～ 16:10	1.5			(19)	家族への支援	大木 美穂	
令和4年7月25日	9:00 ～ 12:10	3.0			(12)	介護におけるコミュニケーション	武田 朝子	
令和4年7月25日	13:30 ～ 15:00	1.5			(15)	高齢者と健康	田島 郁文	
令和4年7月28日	9:00 ～ 12:10	3.0			(13)	介護におけるチームのコミュニケーション	武田 朝子	
令和4年7月28日	13:00 ～ 16:10	3.0			(9)	介護保険制度	下前 剛次	
令和4年8月1日	9:00 ～ 12:10	3.0			(14)	老化に伴うこころとからだの変化と日常	田村 尚	
令和4年8月1日	13:00 ～ 16:10	3.0			(3)	人権と尊厳を支える介護	菅野 秀人	
合計時間数		39.5						

※ 規定時間数以上のカリキュラムを組むことは差し支えない。

※ 独自に追加した科目がある場合には、細目番号欄は空欄とし、内容欄にその内容を記載すること。

※ 「職務の理解」はカリキュラムの最初に、「振り返り」は最後に実施すること。

※ 複数の会場を使用する場合は、会場欄を分割して記載すること。

カリキュラム及び日程表（令和4年度第1回）

事業者名 社会福祉法人春風会

研修課程 **介護職員初任者研修課程**・生活援助従事者研修課程

名称 介護職研修やまゆり

形式 **通学**・通信

募集開始日 令和4年6月1日

定員 20名

講義及び演習

実施年月日	時間	時間数			細目番号	細目名	講師名	会場
		講義	演習	独自				
令和4年8月4日	9:00 ～ 12:10	3.0			(11)	障害福祉制度及びその他の制度	唐沢 和男	すい せんの 里
令和4年8月4日	13:00 ～ 13:30	0.5			(20)	障害の基礎的理解	唐沢 和男	
令和4年8月4日	13:30 ～ 14:00	0.5			(22)	家族の心理、かかり支援の理解	唐沢 和男	
令和4年8月4日	14:10 ～ 16:20	2.0			(21)	障害の医学的側面、生活障害、心理・行動の特徴、かかり支援等の基礎知識	山口 千鶴	
令和4年8月8日	9:00 ～ 12:40	3.0			(23)	介護の基本的な考え方	田村 尚	
令和4年8月8日	13:00 ～ 16:10	3.0			(3)	人権と尊厳を支える介護	菅野 秀人	
令和4年8月15日	9:00 ～ 12:40	3.5			(24)	介護に関するこころのしくみの基礎的理解	田村 尚	
令和4年8月15日	13:00 ～ 16:40	3.0			(25)	介護に関するからだのしくみの基礎的理解	山口 千鶴	
令和4年8月18日	9:00 ～ 12:40	1.5	2.0		(26)	生活と家事	下前 剛次	
令和4年8月18日	13:30 ～ 16:40	3.0			(4)	自立に向けた介護	菅野 秀人	
令和4年8月22日	9:00 ～ 12:40	1.5	2.0		(28)	整容に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護	下前 剛次	
令和4年8月22日	13:30 ～ 16:40	1.0	2.0		(29)	移動・移乗に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護	下前 剛次	
令和4年8月25日	9:00 ～ 12:40	1.0	2.5		(29)	移動・移乗に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護	下前 剛次	
令和4年8月25日	13:30 ～ 16:40	1.0	2.0		(27)	快適な居住環境整備と介護	有村 博	
令和4年8月29日	9:00 ～ 12:10	1.0	2.0		(29)	移動・移乗に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護	下前 剛次	
令和4年8月29日	13:00 ～ 16:40	1.0	2.5		(29)	移動・移乗に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護	下前 剛次	庄やま
令和4年9月1日	9:00 ～ 12:10	2.0	1.0		(30)	食事に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護	畠山 鈴美香	すい せんの 里
令和4年9月1日	9:00 ～ 12:10	1.0	2.0		(30)	食事に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護	加部 愛	
合計時間数		50.5						

※ 規定時間数以上のカリキュラムを組むことは差し支えない。

※ 独自に追加した科目がある場合には、細目番号欄は空欄とし、内容欄にその内容を記載すること。

※ 「職務の理解」はカリキュラムの最初に、「振り返り」は最後に実施すること。

※ 複数の会場を使用する場合は、会場欄を分割して記載すること。

カリキュラム及び日程表（令和4年度第1回）

事業者名 社会福祉法人春風会

研修課程 **介護職員初任者研修課程**・生活援助従事者研修課程

名称 介護職研修やまゆり

形式 **通学**・通信

募集開始日 令和4年6月1日

定員 20名

講義及び演習

実施年月日	時間	時間数			細目番号	細目名	講師名	会場
		講義	演習	独自				
令和4年9月5日	9:00 ～ 12:10	1.0	2.0		(31)	入浴・清潔保持に関連したところとからだのしくみと自立に向けた	唐澤 明美	やまゆり
令和4年9月5日	13:00 ～ 16:40	1.0	2.5		(31)	入浴・清潔保持に関連したところとからだのしくみと自立に向けた	唐澤 明美	
令和4年9月8日	9:00 ～ 12:10	1.0	2.0		(32)	排泄に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	茂木 玲子	すいせんの里
令和4年9月8日	13:00 ～ 16:10	1.0	2.0		(32)	排泄に関連したところとからだのしくみ	茂木 玲子	
令和4年9月12日	9:00 ～ 12:10	1.0	2.0		(32)	排泄に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	茂木 玲子	
令和3年9月12日	13:00 ～ 16:40	1.5	2.0		(33)	睡眠に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	下前 剛次	
令和4年9月15日	9:00 ～ 12:40	1.5	2.0		(34)	死にゆく人に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護	下前 剛次	
令和4年9月15日	13:30 ～ 15:40		2.0		(35)	介護過程の基礎的理解	唐澤 明美	
令和4年9月22日	9:00 ～ 11:00		2.0		(35)	介護過程の基礎的理解	唐澤 明美	
令和4年9月22日	11:10 ～ 12:10		1.0		(36)	総合生活支援技術	唐澤 明美	
令和4年9月26日	13:00 ～ 15:40		2.5		(36)	総合生活支援技術	唐澤 明美	
令和4年9月26日	9:00 ～ 11:40		2.5		(36)	総合生活支援技術	唐澤 明美	
令和4年9月26日	11:40 ～ 12:10			0.5		実習にあたって	研修コーディネーター	
令和4年10月10日	9:00 ～ 10:00	0.5	0.5		(37)	振り返り	唐澤 明美	
令和4年10月10日	10:00 ～ 11:00	0.5	0.5		(38)	就業への備えと研修修了後における継続的な研修	唐澤 明美	
令和4年10月10日	11:10 ～ 12:10			1.0		筆記試験	下前 剛次	
令和4年10月10日	13:30 ～ 14:00			0.5		修了式	研修コーディネーター	
		36.5						

※ 規定時間数以上のカリキュラムを組むことは差し支えない。

※ 独自に追加した科目がある場合には、細目番号欄は空欄とし、内容欄にその内容を記載すること。

※ 「職務の理解」はカリキュラムの最初に、「振り返り」は最後に実施すること。

※ 複数の会場を使用する場合は、会場欄を分割して記載すること。

③介護職研修やまゆり会場一覧

講義・演習・実習 会場

小規模特別養護老人ホームすいせんの里

〒377-0801 群馬県吾妻郡東吾妻町原町39 0279-26-7888



小規模特別養護老人ホーム 定員29名
短期入所生活介護 定員5名
実習担当者 小池 勝也 宮崎 真里絵
他9名

講義・演習・実習 会場

特別養護老人ホームやまゆり荘

〒377-0433 群馬県吾妻郡中之条町折田2515 0279-75-6517



特別養護老人ホーム 80床
短期入所生活介護 20床
地域密着型通所介護 10名
経費老人ホーム 20名(介護保険事業外)
実習担当者 田村 結花 柏原 真理子
山本 康樹 小林 一美 赤尾 信行 他13名

実習 会場

特別養護老人ホームいわびつ荘

〒377-0801 群馬県吾妻郡東吾妻町原町5015 0279-68-4840



特別養護老人ホーム 定員56名
短期入所生活介護 定員4名
実習担当者 佐藤 貴子 丸山 保子
山本 泰子 田村 信之
他5名

実習プログラム		
事業者名	社会福祉法人 春風会	
実施時間	8時30分～15時30分/昼休み（60分）合計 6時間	
実習を行う細目	①介護に関するからだのしくみの基礎的理解 ②生活と家事 ③移動・移乗に関連したところとからだのしくみ ④食事に関連したところとからだのしくみ ⑤振り返り ⑥就業への備えと研修終了後の継続的な研修	
－ 例		
実施時間	実習の内容（カッコ内は一例）	
8：30～ 8：40	朝礼（自己紹介）	実 習 を 通 し て ① ～ ⑥ を 行 う
8：40～ 8：55	部署での送り（実習目標発表）	
8：55～ 9：30	おむつ交換見学（①⑤）	
9：30～10：30	水分補給補助、コミュニケーション（②④）	
10：30～10：40	申し送り	
10：40～11：45	リネン交換（シーツ交換、ベッドメイキング）・清掃（居室）（①③⑤）	
11：45～12：00	昼食準備	
12：00～12：45	配膳、食事介助（①④⑤）	
12：45～13：45	休憩	
13：45～14：00	おやつ準備	
14：00～14：45	おやつ、水分補給介助（④⑤）	
14：45～15：00	コミュニケーション（①②⑤）	
15：00～15：30	実習まとめ（質疑応答）（⑤⑥）	

介護職員初任者研修 各科目シラバス

社会福祉法人春風会
介護職研修やまゆり

1. 職務の理解 (6 時間)

(1) 到達目標

ねらい	研修に先立ち、これからの介護が目指すべき、その人の生活を支えるケアの実践について、介護職がどのような環境で、どのような形で、どのような仕事を行うのか、具体的イメージを持って実感し、以降の研修に実践的に取り組めるようになる。
-----	---

(2) 内容

指導の視点	・研修課程全体（130 時間）の構成と各研修科目（10 科目）相互の関連性の全体像をあらかじめイメージできるようにし、学習内容を体系的に整理して知識を効率・効果的に学習できるような素地の形成を促す。 ・視聴覚教材等を工夫するとともに、必要に応じて見学を組み合わせるなど、介護職が働く現場や仕事の内容を、出来るかぎり具体的に理解させる。
内容	1. 多様なサービスの理解 ○介護保険サービス（居宅、施設）、○介護保険外サービス 2. 介護職の仕事内容や働く現場の理解 ○居宅、施設の多様な働く現場におけるそれぞれの仕事内容 ○居宅、施設の実際のサービス提供現場の具体的イメージ （視聴覚教材の活用、現場職員の体験談など） ○ケアプランの位置付けに始まるサービスの提供に至るまでの一連の業務の流れとチームアプローチ・他職種、介護保険外サービスを含めた地域の社会資源との連携

2. 介護における尊厳の保持・自立支援（9 時間）

（1）到達目標

ねらい	介護職が、利用者の尊厳のある暮らしを支える専門職であることを自覚し、自立支援、介護予防という介護・福祉サービスを提供するにあたっての基本的視点及びやってはいけない行動例を理解している。
-----	--

（2）内容

指導の視点	・利用者およびその家族の要望にそのまま応えることと、自立支援・介護予防という考え方に基づいたケアの違いや自立という概念に対する気づきを促す。 ・利用者の残存機能を効果的に活用しながら自立支援や重度化の防止・遅延化に資するケアへの理解を促す。 ・利用者の尊厳を著しく傷つける言動とその理由について考えさせ、尊厳という概念に対する気づきを促す。高齢者虐待に対する理解を促す。
内容	1. 人権と尊厳を支える介護 （1）人権と尊厳の保持 ○個人として尊重、○アドボカシー、○エンパワメントの視点、○「役割」の実感、○尊厳のある暮らし、○利用者のプライバシーの保護 （2）ICF ○介護分野におけるICF （3）QOL ○QOLの考え方、○生活の質 （4）ノーマライゼーション ○ノーマライゼーションの考え方 （5）虐待防止・身体拘束禁止 ○身体拘束禁止、○高齢者虐待防止法、○高齢者の養護者支援 （6）個人の権利を守る制度の概要 ○個人情報保護法、○成年後見制度、○日常生活自立支援事業 2. 自立に向けた介護 （1）自立支援 ○自立・自律支援、○残存能力の活用、○動機と欲求、○意欲を高める支援、○個別性／個別ケア、○重度化防止 （2）介護予防 ○介護予防の考え方

3. 介護の基本 (6 時間)

(1) 到達目標

ねらい	・介護職に求められる専門性と職業倫理の必要性に気づき、職務におけるリスクとその対応策のうち重要なものを理解している。 ・介護を必要としている人の個別性を理解し、その人の生活を支えるという視点から支援を捉える事ができる。
-----	--

(2) 内容

指導の視点	・具体例を示す等、介護職に求められる専門性に対する理解を促す。 ・介護におけるリスクに気づき、緊急対応の重要性を理解するとともに、場合によってはそれに一人に対応しようとせず、サービス提供責任者や医療職と連携することが重要であると実感できるよう促す。
内容	1. 介護職の役割、専門性と多職種との連携 (1) 介護環境の特徴の理解 ○訪問介護と施設介護サービスの違い、○地域包括ケアの方向性 (2) 介護の専門性 ○重度化防止・遅延化の視点、○利用者主体の支援姿勢、○自立した生活を支えるための援助、○根拠のある介護、○チームケアの重要性、○事業所内のチーム、○多職種から成るチーム (3) 介護に関わる職種 ○異なる専門性を持つ多職種の理解、○介護支援専門員、○サービス提供責任者、○看護師等とチームとなり利用者を支える意味、○互いの専門職能力を活用した効果的なサービスの提供、○チームケアにおける役割分担 2. 介護職の職業倫理 職業倫理 ○専門職の倫理の意義、○介護の倫理（介護福祉士の倫理と介護福祉士制度等） ○介護職としての社会的責任、○プライバシーの保護・尊重 3. 介護における安全の確保とリスクマネジメント (1) 介護における安全の確保 ○事故に結びつく要因を探り対応していく技術、○リスクとハザード (2) 事故予防、安全対策 ○リスクマネジメント、○分析の手法と視点、○事故に至った経緯の報告（家族への報告、市町村への報告等）、○情報の共有 (3) 感染対策 ○感染の原因と経路（感染源の排除、感染経路の遮断）、○「感染」に対する正しい知識 4. 介護職の安全 介護職の心身の健康管理 ○介護職の健康管理が介護の質に影響、○ストレスマネジメント、○腰痛の予防に関する知識、○手洗い・うがいの励行、○手洗いの基本、○感染症対策

4. 介護・福祉サービスの理解と医療との連携（9 時間）

（1）到達目標

ねらい	介護保険制度や障害福祉制度を担う一員として最低限知っておくべき制度の目的、サービス利用の流れ、各専門職の役割・責務について、その概要のポイントを列挙できる。
-----	--

（2）内容

指導の視点	・介護保険制度・障害福祉制度を担う一員として、介護保険制度の理念に対する理解を徹底する。 ・利用者の生活を中心に考えるという視点を共有し、その生活を支援するための介護保険制度、障害福祉制度、その他制度のサービスの位置づけや、代表的なサービスの理解を促す。
内容	1. 介護保険制度 （1）介護保険制度創設の背景及び目的、動向 ○ケアマネジメント、○予防重視型システムへの転換、○地域包括支援センターの設置、○地域包括ケアシステムの推進 （2）仕組みの基礎的理解 ○保険制度としての基本的仕組み、○介護給付と種類、○予防給付、○要介護認定の手順 （3）制度を支える財源、組織・団体の機能と役割 ○財政負担、○指定介護サービス事業者の指定 2. 医療との連携とリハビリテーション ○医行為と介護、○訪問看護、○施設における看護と介護の役割・連携、○リハビリテーションの理念 3. 障害福祉制度およびその他制度 （1）障害福祉制度の理念 ○障害の概念、○ICF（国際生活機能分類） （2）障害福祉制度の仕組みの基礎的理解 ○介護給付・訓練等給付の申請から支給決定まで （3）個人の権利を守る制度の概要 ○個人情報保護法、○成年後見制度、○日常生活自立支援事業

5. 介護におけるコミュニケーション技術（6 時間）

（1）到達目標

ねらい	高齢者や障害者のコミュニケーション能力は一人ひとり異なることと、その違いを認識してコミュニケーションを取ることが専門職に求められていることを認識し、初任者として最低限の取るべき（取るべきでない）行動例を理解している。
-----	--

（2）内容

指導の視点	・利用者の心理や利用者との人間関係を著しく傷つけるコミュニケーションとその理由について考えさせ、相手の心身機能に合わせた配慮が必要であることへの気づきを促す。 ・チームケアにおける専門職間でのコミュニケーションの有効性、重要性を理解するとともに、記録等を作成する介護職一人ひとりの理解が必要であることへの気づきを促す。
内容	1. 介護におけるコミュニケーション （1）介護におけるコミュニケーションの意義、目的、役割 ○相手のコミュニケーション能力に対する理解や配慮、○傾聴、○共感の応答 （2）コミュニケーションの技法、道具を用いた言語的コミュニケーション ○言語的コミュニケーションの特徴、○非言語コミュニケーションの特徴 （3）利用者・家族とのコミュニケーションの実際 ○利用者の思いを把握する、○意欲低下の要因を考える、○利用者の感情に共感する、○家族の心理的理解、○家族へのいたわりと励まし、○信頼関係の形成、○自分の価値観で家族の意向を判断し非難することがないようにする、○アセスメントの手法とニーズとデマンドの違い （4）利用者の状況・状態に応じたコミュニケーション技術の実際 ○視力、聴力の障害に応じたコミュニケーション技術、○失語症に応じたコミュニケーション技術、○構音障害に応じたコミュニケーション技術、○認知症に応じたコミュニケーション技術 2. 介護におけるチームのコミュニケーション （1）記録における情報の共有化 ○介護における記録の意義・目的、利用者の状態を踏まえた観察と記録、○介護に関する記録の種類、○個別援助計画書（訪問・通所・入所、福祉用具貸与等）、○ヒヤリハット報告書、○5W1H （2）報告 ○報告の留意点、○連絡の留意点、○相談の留意点 （3）コミュニケーションを促す環境 ○会議、○情報共有の場、○役割の認識の場（利用者と頻回に接触する介護者に求められる観察眼）、○ケアカンファレンスの重要性

6. 老化の理解 (6 時間)

(1) 到達目標

ねらい	加齢・老化に伴う生理的な変化や疾病について、生理的な側面から理解することの重要性に気づき、自ら継続的に学習すべき事項を理解している。
-----	--

(2) 内容

指導の視点	高齢者に多い心身の変化、疾病の症状等について具体例を挙げ、その対応における留意点を説明し、介護において生理的側面の知識を身につけることの必要性への気づきを促す。
内容	1. 老化に伴うところとからだの変化と日常 (1) 老年期の発達と老化に伴う心身の変化の特徴 ○防衛反応(反射)の変化、○喪失体験 (2) 老化に伴う心身の機能の変化と日常生活への影響 ○身体的機能の変化と日常生活への影響、○咀嚼機能の低下、○筋・骨・関節の変化、○体温維持機能の変化、○精神的機能の変化と日常生活への影響 2. 高齢者と健康 (1) 高齢者の疾病と生活上の留意点 ○骨折、○筋力の低下と動き・姿勢の変化、○関節痛 (2) 高齢者に多い病気とその日常生活上の留意点 ○循環器障害(脳梗塞、脳出血、虚血性心疾患)、○循環器障害の危険因子と対策、○老年期うつ病症状(強い不安感、焦燥感を背景に、「訴え」の多さが全面に出る、うつ病性仮性認知症)、○誤嚥性肺炎、○病状の小さな変化に気付く視点、○高齢者は感染症にかかりやすい

7. 認知症の理解 (6 時間)

(1) 到達目標

ねらい	介護において認知症を理解することの必要性に気づき、認知症の利用者を介護する時の判断の基準となる原則を理解している。
-----	---

(2) 内容

指導の視点	・認知症の利用者の心理・行動の実際を示す等により、認知症の利用者の心理・行動を実感できるよう工夫し、介護において認知症を理解することの必要性への気づきを促す。 ・複数の具体的なケースを示し、認知症の利用者の介護における原則についての理解を促す。
内容	1. 認知症を取り巻く状況 認知症ケアの理念 ○パーソンセンタードケア、○認知症ケアの視点（できることに着目する） 2. 医学的側面から見た認知症の基礎と健康管理 認知症の概念、認知症の原因疾患とその病態、原因疾患別ケアのポイント、健康管理 ○認知症の定義、○もの忘れとの違い、○せん妄の症状、○健康管理（脱水・便秘・低栄養・低運動の防止、口腔ケア）、○治療、○薬物療法、○認知症に使用される薬 3. 認知症に伴うこころとからだの変化と日常生活 （1）認知症の人の生活障害、心理・行動の特徴 ○認知症の中核症状、○認知症の行動・心理症状（BPSD）、○不適切なケア、○生活環境で改善 （2）認知症の利用者への対応 ○本人の気持ちを推察する、○プライドを傷つけない、○相手の世界に合わせる、○失敗しないような状況をつくる、○すべての援助行為がコミュニケーションであると考え、○身体を通したコミュニケーション、○相手の様子・表情・視線・姿勢などから気持ちを洞察する、○認知症の進行に合わせたケア 4. 家族への支援 ○認知症の受容過程での援助、○介護負担の軽減（レスパイトケア）

8. 障害の理解 (3 時間)

(1) 到達目標

ねらい	障害の概念と I C F、障害福祉の基本的な考え方について理解し、介護における基本的な考え方について理解している。
-----	---

(2) 内容

指導の視点	・介護において障害の概念と I C F を理解しておくことの必要性の理解を促す。 ・高齢者の介護との違いを念頭におきながら、それぞれの障害の特性と介護上の留意点に対する理解を促す。
内容	1. 障害の基礎的理解 (1) 障害の概念と I C F ○ I C F の分類と医学的分類、○ I C F の考え方 (2) 障害福祉の基本理念 ○ノーマライゼーションの概念 2. 障害の医学的側面、生活障害、心理・行動の特徴、かかわり支援等の基礎的知識 (1) 身体障害 ○視覚障害、○聴覚、平衡障害、○音声・言語・咀嚼障害、○肢体不自由、○内部障害 (2) 知的障害 ○知的障害 (3) 精神障害 (高次脳機能障害・発達障害を含む) ○統合失調症・気分 (感情障害)・依存症などの精神疾患、○高次脳機能障害、○広汎性発達障害・学習障害・注意欠陥多動性障害などの発達障害 (4) その他の心身の機能障害 3. 家族の心理、かかわり支援の理解 家族への支援 ○障害の理解・障害の受容支援、○介護負担の軽減

9. こころとからだのしくみと生活支援技術（75 時間）

<展開>

基本知識の学習の後に、生活支援技術等の学習を行い、最後に事例に基づく総合的な演習を行う。

基本知識の学習…10時間（講義9.5時間・実習0.5時間）

- 「1. 介護の基本的な考え方」
- 「2. 介護に関するこころのしくみの基礎的理解」
- 「3. 介護に関するからだのしくみの基礎的理解」

生活支援技術の講義・演習…55時間（講義19時間・演習32.5時間・実習3.5時間）

- 「4. 生活と家事」
- 「5. 快適な居住環境整備と介護」
- 「6. 整容に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護」
- 「7. 移動・移乗に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護」
- 「8. 食事に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護」
- 「9. 入浴、清潔保持に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護」
- 「10. 排泄に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護」
- 「11. 睡眠に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護」
- 「12. 死にゆく人に関連したこころとからだのしくみと終末期介護」

生活支援技術演習…10時間（演習10時間）

- 「13. 介護過程の基礎的理解」
- 「14. 総合生活支援技術演習」

（4）内容

① 到達目標

ねらい	・ 介護技術の根拠となる人体の構造や機能に関する知識を習得し、安全な介護サービスの提供方法等を理解し、基礎的な一部または全介助等の介護が実施できる。 ・ 尊厳を保持し、その人の自立及び自律を尊重し、持てる力を発揮してもらいながらその人の在宅・地域等での生活を支える介護技術や知識を習得する。
-----	---

②内容

指導の視点	・ 介護実践に必要なこころとからだのしくみの基礎的な知識を介護の流れを示しながら、視聴覚教材などを使って理解させ、具体的な身体各部の名称や機能等が列挙できるように促す。 ・ サービスの提供例の紹介等を活用し、利用者にとっての生活の充足を提供し、かつ不満足を感じさせない技術が必要となることへの理解を促す。 ・ 例えば「食事の介護技術」は「食事という生活の支援」と捉え、その生活を支える技術の根拠を身近に理解できるように促す。さらに、その利用者が満足する食事が提供したいと思う意欲を引き出す。他の生活場面でも同様とする。 ・ 「死」に向かう生の充実と尊厳ある死について考えることができるように、身近な素材からの気づきを促す。
-------	---

内容	<Ⅰ. 基本知識の学習…10時間> 1. 介護の基本的な考え方 ○理論に基づく介護（ICFの視点に基づく生活支援、我流介護の排除）、○法的根拠に基づく介護 2. 介護に関するところのしくみの基礎的理解 ○学習と記憶の基礎知識、○感情と意欲の基礎知識、○自己概念と生きがい、○老化や障害を受け入れる適応行動とその阻害要因、○ところの持ち方が行動に与える影響、○からだの状態がところに与える影響 3. 介護に関するからだのしくみの基礎的理解 ○人体の各部の名称と動きに関する基礎知識、○骨・関節・筋に関する基礎知識、ボディメカニクスの活用、○中枢神経系と体性神経に関する基礎知識、○自律神経と内部器官に関する基礎知識、○ところとからだを一体的に捉える、○利用者の様子の普段との違いに気づく視点 <Ⅱ. 生活支援技術の学習…55時間> 4. 生活と家事 家事と生活の理解、家事援助に関する基礎的知識と生活支援 ○生活歴、○自立支援、○予防的な対応、○主体性・能動性を引き出す、○多様な生活習慣、○価値観 5. 快適な居住環境整備と介護 快適な居住環境に関する基礎知識、高齢者・障害者特有の居住環境整備と福祉用具に関する留意点と支援方法 ○家庭内に多い事故、○バリアフリー、○住宅改修、○福祉用具貸与 ※演習では、実際の福祉用具を見て、触れて、体験することにより理解を深める。 6. 整容に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護 整容に関する基礎知識、整容の支援技術 ○身体状況に合わせた衣服の選択、着脱、○身支度身、○整容行動、○洗面の意義・効果 ※演習では、整容や衣類の着脱などを双方向（利用者・介助者）の立場で体験して理解を深める。 7. 移動・移乗に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護 移動・移乗に関する基礎知識、さまざまな移動・移乗に関する用具とその活用方法、利用者、介助者にとって負担の少ない移動・移乗を阻害するところとからだの要因の理解と支援方法、移動と社会参加の留意点と支援 ○利用者と介護者の双方が安全で安楽な方法、○利用者の自然な動きの活用、○残存能力の活用・自立支援、○重心・重力の働きの理解、○ボディメカニクスの基本原理、○移乗介助の具体的な方法（車いすへの移乗の具体的な方法、全面介助でのベッド・車いす間の移乗、全面介助での車いす・洋式トイレ間の移乗）、○移動介助（車いす・歩行器・つえ等）、○褥瘡予防 ※演習では、実際の道具を使い、利用者の状態に合わせた介助の方法を、双方向（利用者・介助者）の立場で体験して理解を深める。 8. 食事に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護 食事に関する基礎知識、食事環境の整備・食事に関連した用具・食器の活用方
----	--

法と食事形態とからだのしくみ、楽しい食事を阻害するところとからだの要因の理解と支援方法、食事と社会参加の留意点と支援

○食事をする意味、○食事のケアに対する介護者の意識、○低栄養の弊害、○脱水の弊害、○食事と姿勢、○咀嚼・嚥下のメカニズム、○空腹感、○満腹感、○好み、○食事の環境整備（時間・場所等）、○食事に関する福祉用具の活用と介助方法、○口腔ケアの定義、○誤嚥性肺炎の予防 ※演習では実際の食事形態やトロミを付けた食材などを、双方向（利用者・介助者）の立場で体験して理解を深める。

9. 入浴、清潔保持に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護

入浴、清潔保持に関連した基礎知識、さまざまな入浴用具と整容用具の活用方法、楽しい入浴を阻害するところとからだの要因の理解と支援方法

○羞恥心や遠慮への配慮、○体調の確認、○全身清拭（身体状況の確認、室内環境の調整、使用物品の準備と使用方法、全身の拭き方、身体の支え方）、○目・鼻腔・耳・爪の清潔方法、○陰部清浄（臥床状態での方法）、○足浴・手浴・洗髪 ※演習では、実際の浴室を使い、利用者の状態に合わせた介助方法などを、双方向（利用者・介助者）の立場で体験して理解を深める。

10. 排泄に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護

排泄に関する基礎知識、さまざまな排泄環境整備と排泄用具の活用方法、爽やかな排泄を阻害するところとからだの要因の理解と支援方法

○排泄とは、○身体面（生理面）での意味、○心理面での意味、○社会的な意味、○プライド・羞恥心、○プライバシーの確保、○おむつは最後の手段／おむつ使用の弊害、○排泄障害が日常生活上に及ぼす影響、○排泄ケアを受けることで生じる心理的な負担・尊厳や生きる意欲との関連、○一部介助を要する利用者のトイレ介助の具体的方法、○便秘の予防（水分の摂取量保持、食事内容の工夫／繊維質の食物を多く取り入れる、腹部マッサージ） ※演習では、着衣の上から紙パンツやおむつを当てて、その違和感や羞恥心の一部を体験する。また、実際におむつ交換などを双方向（利用者・介助者）の立場で体験して理解を深める。

11. 睡眠に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護

睡眠に関する基礎知識、さまざまな睡眠環境と用具の活用方法、快い睡眠を阻害するところとからだの要因の理解と支援方法

○安眠のための介護の工夫、○環境の整備（温度や湿度、光、音、よく眠るための寝室）、○安楽な姿勢・褥瘡予防 ※演習では、個人の好みを確認することや安楽な体位等を体験することで、個人差のあることを確認し、個別介助の必要性も含めて学びを深める。

12. 死にゆく人に関連したところとからだのしくみと終末期介護

終末期に関する基礎知識とところとからだのしくみ、生から死への過程、「死」に向き合うところの理解、苦痛の少ない死への支援

○終末期ケアとは、○高齢者の死に至る過程（高齢者の自然死（老衰）、癌死）、○臨終が近づいたときの兆候と介護、○介護従事者の基本的態度、○多職種間の情報共有の必要性 ※演習では個人の価値観の違いによる思いの違

	い、医学的援助だけではない、心に寄り添う援助についても理解を深める。 ※「Ⅱ．生活支援技術の学習」においては、総時間の概ね5～6割を技術演習にあてることとし、その他の時間は、個々の技術に関連したところとからだのしくみ等の根拠の学習及び技術についての講義等に充てること。 <Ⅲ．生活支援技術演習…10～12 時間程度> 13. 介護過程の基礎的理解 ○介護過程の目的・意義・展開、○介護過程とチームアプローチ 14. 総合生活支援技術演習 （事例による展開） 生活の各場面での介護について、ある状態像の利用者を想定し、一連の生活支援を提供する流れの理解と技術の習得、利用者の心身の状況にあわせた介護を提供する視点の習得を目指す。 ○事例の提示→ところとからだの力が発揮できない要因の分析→適切な支援技術の検討→支援技術演習→支援技術の課題（1 事例1.5 時間程度で上のサイクルを実施する） ○事例は高齢（要支援2程度、認知症、片麻痺、座位保持不可）から2事例を選択して実施 ※本科目の6～11の内容においても、「14. 総合生活支援技術演習」で選択する高齢の2事例と同じ事例を共通して用い、その支援技術を適用して、考え方の理解と技術の習得を促す。 ※本科目の6～11の内容における各技術の演習及び「14. 総合生活支援技術演習」においては、一連の演習を通して受講者の技術度合いの評価（介護技術を適用する各手順のチェックリスト形式による確認等）を行う。
--	---

10. 振り返り（4 時間）

（1）到達目標・評価の基準

ねらい	・研修全体を振り返り、本研修を通じて学んだことについて再確認を行うとともに、就業後も継続して学習・研鑽する姿勢の形成、学習課題の認識をはかる。
-----	--

指導の視点	・在宅、施設の何れの場合であっても、「利用者の生活の拠点に共に居る」という意識を持って、その状態における模擬演習（身だしなみ、言葉遣い、対応の態度等の礼節を含む。）を行い、業務における基本的態度の視点を持って介護を行えるよう理解を促す。 ・研修を通じて学んだこと、今後継続して学ぶべきことを演習等で受講者自身に表出・言語化させたいと、利用者の生活を支援する根拠に基づく介護の要点について講義等により再確認を促す。 ・修了後も継続的に学習することを前提に、介護職が身につけるべき知識や技術の体系を再掲するなどして、受講者一人ひとりが今後何を継続的に学習すべきか理解できるよう促す。 ・最新知識の付与と、次のステップ（職場環境への早期適応等）へ向けての課題を受講者が認識できるよう促す。 ・介護職の仕事内容や働く現場、事業所等における研修の実例等について、具体的なイメージを持たせるような教材の工夫、活用が望ましい。（視聴覚教材、現場職員の体験談、サービス事業所における受講者の選択による実習・見学等）
内容	1. 振り返り ○研修を通して学んだこと、○今後継続して学ぶべきこと ○根拠に基づく介護についての要点（利用者の状態像に応じた介護と介護過程、身体・心理・社会面を総合的に理解するための知識の重要性、チームアプローチの重要性等） 2. 就業への備えと研修修了後における継続的な研修 ○継続的に学ぶべきこと、○研修終了後における継続的な研修について、具体的にイメージできるような事業所等における実例（Off-JT、OJT）を紹介（法人内アセッサーによる、介護キャリア段位制度の紹介など）

介護員養成状況

介護職研修やまゆりは、旧ヘルパー養成やまゆりとして、平成 15 年から「訪問介護員養成研修」（ホームヘルパー養成研修 2 級課程）を始め、平成 25 年から介護職員初任者研修を行っています。受講生は、渋川市、沼田市、川場村、高山村、中之条町（旧六合村を含む）、東吾妻町（旧東村を含む）、長野原町、嬭恋村、草津町など、群馬県の北毛地域からたくさんの皆様にご参加いただいております。現在までに、合計 23 期、467 名の方の資格取得に携わらせていただいております。

